

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりのある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人が自分自身を見つめ直し、学ぶことによって資質の向上や指導スキルを高めていく。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②研修や自己評価による、教員の資質向上に努める。
 - ③講習会の開催を行う。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
 - ③安全対策
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	一日の保育内容や園児、保護者対応などを毎日話し合い、職員間の連携を深め、次の保育に繋がるよう全員が意見を言い共通理解に努めた。
②研修や自己評価による 教員の資質向上 教育活動	B	外部研修での学びを発表し、学び合うことで日々の保育にいかせた。 附属各4園の職員が集まる学びの場を毎年設けている。 本園の研究、研修を進める中で職員の造形活動への思いが高まった。 さらに話し合う場を増やし、充実した保育が出来るよう努める。
③講習会の開催	A	天王寺中央地域の職員研修を本園で行った。
2 ①園児の健康観察	A	体調不良の子どもが出た場合、全員の体温測定や様子を見ることで、感染症が広まらないように努め、降園時、保護者に様子などを伝えた。
②感染症対策	A	・新型コロナウイルスの2類から5類への移行に合わせた対応 ・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・トイレに消毒液をふくませた足ふきマットを設置 ・清掃の方により階段の手すり、扉等の随時消毒 ・うがい、手洗いの推進 ・定期的な遊具、玩具、机、いす等の消毒
③安全対策	A	毎月の避難訓練、火災・地震・防犯訓練や交通安全と不審者対応を組み入れ、年間計画を立て行なった。 消防署の方による指導、訓練の実施。常駐の警備員設置。 教員は、緊急一斉メールの方法を周知。 総合遊具の業者による安全点検を行い、つり橋の付け替えを行なった。 給食では保護者がメニューの確認と選択、誤植防止の為に担任は同じ席で食事をする、子どもクッキングも同様にアレルギー対策に努めた。 砂場の消毒を月2回行う。
3 地域の子育て支援の充実	A	未入园児対象の親子教室は、0～2歳コース（月1回） 2～3歳コース（月2～3回）を各コース毎回2回にわけて開催した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・自己点検、自己評価で自己を振り返ることが出来た。 ・クラスだよりで保育活動を保護者に伝えたが、さらに教員と保護者との会話を増やしたい。 ・幼稚園、小学校との連携は偏りがあったため、今後は、幼小連携に努めていきたい。 ・職員全体の打ち合わせを毎日行い、共通理解やチームワークを常に大切に考えてきた。特に行事の前は綿密に計画を立て、各教員が役割分担を持ち、取り組めたのではないと思う。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	避難訓練を振り返り、安全においての共通理解を職員間でさらに深めていきたい。
教育活動	日々の保育を振り返り、反省を次に活かしていけるよう努めていきたい。また、教育課程を見直し子ども達が生き生きと楽しく過ごせるように考えていきたい。 保護者との連携についても工夫していきたい。
園のPR	HPでの写真掲載、情報公開。天王寺区の情報博覧会で幼稚園の情報公開。 今後はInstagramを開設し、幼稚園での保育や行事などの取り組みを広く地域の方に知ってもらいたい。参加できるプログラムも紹介し地域の子育て拠点として活動を広げていきたいと考えている。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 先生方のチームワークの良さは園の雰囲気につながり、保護者の方にも伝わる。
- 職員間同士が素直に言い合える関係性はとても大切で、教育の質をあげている。
- 子ども達だけでなく、保護者にもきっちり接してくれるので、毎日安心して子どもを預けることができた。
- 一人の担任が一日しっかりと子供の様子をみて、その子の良いところを引き伸ばしてくれている。
- 園に伝えたことをきっちり改善してくれる。
- 日々の保育や行事は工夫されていて、子ども達の良いところを引き伸ばしてくれ、プラスになることが多い。
- コロナ禍により、親が参加できる行事が少なくなってきたので、親も園の行事にもっと参加したい。
- 運動会の場所が芸大※に変わり不便を感じることもあるが、天候に左右されず綺麗で涼しい環境が素晴らしい。
- 人数が多く、園庭が狭い環境の中で、「うごく」「避ける」が知らず知らずのうちに身についてきていると思う。
- 附属四園音楽会は、本物の楽器で演奏し、達成感が素晴らしいので今後も続けて欲しい。
- お茶のお稽古や柔道は普段なかなか経験できることではないので嬉しい。
- 実習生の丁寧な指導や保護者のご理解・ご協力のお陰で、学生は幼稚園を凄く好きになっている。

※大阪芸術大学総合体育館（大阪府南河内郡河南町）

7. 公開保育について

実施日時	令和5年12月4日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園
保育者	あやめ2組 担当教諭
テーマ	作ったものを使ってゲーム遊びを楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 准教授
参加者	大阪府幼稚園・保育園園長、副園長、主任、教諭、職員、育友会会長
総評	子ども達がとても伸び伸びしていて、先生との信頼関係ができています。活動の中で静かに製作を楽しむ時間、盛り上がる時間、先生の話聞く時間があり感心しました。ゲームは子ども達同士で自然に助け合う姿が見られ、日頃の子ども達の様子がうかがえました。負けて悔しい気持ちを感じるのも大切だと思います。子ども達に公平に接し、負けた子の気持ちをフォローされている配慮があったので、勝ち負けがはっきりしていて良かったです。先生が助けるのではなく見守る、子ども達からの意見を引き出すことがとても活かされた、細やかな準備が整った保育だったと思います。